

# zine きょうだいをひらく

この zine は、浜松の認定 NPO 法人クリエイティブサポートレツツと EDIT LOCAL 共催のワークショップ「福祉を編集する！」<sup>1)</sup> の参加者グループによってつくられたものです。設定したテーマは、「きょうだいをひらく」。たけし文化センター連尺町スタッフの久保田瑛さんと出会い、重度の知的障害を持つ弟の壮さんとの関係について話を聞いたことがはじまりでした。(ここから「きょうだい児」という言葉をめぐる対話も生まれました)

「きょうだい」とはいったい何でしょうか。血のつながり? 同居している? そうしたことだけでなく、この社会には実に様々な“きょうだい”的力タチがあるはずです。

ここに綴った一編が、多様な“きょうだい”的世界への扉を開いていくこと。そして、人それぞれの生き方や家族との関係性が尊重され、受け入れられる社会の実現につながっていくこと。私たちは、そんなことを願っています。

\*1 「福祉を編集する！」ライティングワークショップ 2021年12月3日～5日  
共催：認定NPO法人クリエイティブサポートレツツ×EDIT LOCAL  
<https://edit-local.jp/news/lets/>

\*2 病気や障害を抱える兄弟姉妹を持つ子ども（児童・成人問わず）のことをいう。（Wikipedia）

## 1 2022年2月、鹿角未由さんのお兄さんに聞く 鹿角 兄

この ZINE のテーマは「きょうだいをひらく」ですが、妹の未由さんがいわゆる知的障がい者なのですよ。

兄：東京都が知的障がい者に交付する「愛の手帳」を持っていて、福祉作業所にも通っていますから、そういうのでしょうか。いつか視力を失うかもしれない網膜色素変性症という病気も抱えています。

きょうだいに障がい者がいる人のことを「きょうだい児」と呼ぶそうです。

兄：40年ほど知的障がい者の妹がいる人生を過ごしていますが、最近まで知りませんでした。色々な配慮が感じられる言葉なのに、ただちに意味を理解することができませんし、不思議な言葉などと思います。

一知ったきっかけは何だったのですか？

兄：2020年秋に母が亡くなりました。末期の肺がんだと連絡を受けてから4ヶ月半しかなかったのですが、実家に通うようになった中で、妹と向き合うこともあります。そんなときこの言葉を見つけ、こういう表現があるのか、なんだ自分のことか、と。ちなみに「親なきあと」という言葉もこのタイミングで知りました。

一障がいをもる諸問題が自身の問題として目の前に迫ってきたのですね。

兄：先のことだろうとも何も考えていませんでしたからね。加えて、実家が賃貸併用住宅で土地や賃貸部分が母名義だったので、住宅ローンを含めて僕が相続することになりました。だから、「障がい者と不動産が一気に向こうからやってきた」という感覚です。

一父上は？

兄：実は父もあちこちにがんができる、母の闘病中から手術入院を繰り返しているんです。そうこうするうちにまた再発して、今度、抗がん剤治療を受けることになってしまいました。

一それは大変ですね…。

兄：ある種のヒーリストなので、本人は割と頑々としていますが（笑）。でも、副作用次第では障がい者と一緒に生活を続けるのもしないだらうし、二人のケアのために今以上に実家に通う必要がありそうです。

一向こうからさに「看病」という問題もやってきました。ところでお兄さんのそもそもの仕事は何でしたっけ？

兄：フリーランスで WEB や印刷物の企画とかライティングとかをのんびりやっています。まあ、それゆえ時間の融通は利くのですけれどね。

一「きょうだいをひらく」の話に戻りましょうか。

兄：父が入院したときに実家に泊まり、妹と一緒に生活するという経験をしました。一人でできることは限られているので、基本的にずっと近くにいるわけです。で、それは仕がないこととして、一方で親が甘やかし過ぎて上げ下げ贋沢え暮の癖がついているので、そこも目をつぶつて僕が世話をするのは、正直きつい。だから将来のことを想像するうんざりするのですが、かといってどこか施設に入れるのも可哀想だし、ならば面倒を見ることを「仕事」にしてしまうのはどうか、ということをちらほら考えるようになりました。ある意味ライフワークのようにならざるをえないものを、いそこのライスクワードとして割り切ってしまえないかな、と。

一具体的にどういうことですか？

兄：例えば、実家は商店街の一角にあって1階部分を医療者さんに貸しているので、いずれそこが空いたら彼女のための居場所となるよう何らかの整備をする、みたいなことかな。運営するよという第三者と出会い、良好な関係が築けるとなおいいのですがね。妹の面倒を見ることと実家をどう扱うかということをワンセットで捉えて、「きょうだい」の関係をひらきながら実家の土地もひらいていく、そりやって考えられたら。

一同建物に住まいとサードプレイス的な場があるというのは、妹さんにとっては素晴らしいことかもしれません。

兄：いいつ、歯医者さんもまだお元気だし、ローン返済ができなくなってしまったビルを売っ払うしか選択肢がなくなる可能性だってありますからね（笑）。そうなれば、面白そうな福祉施設のある地方と一緒に移住してしまうのもいいかも、なんて思ってもみたり。妻とも相談せねばですが、優柔不断でんぶんなもので、もやもやしております。

一何かがひらくとなるとき、その手前のところにはもやがかかっていたりするものですよ。

兄：そういうものですかね。ところで、障がい者やがん、遺産相続などは、いずれも自分ごとである人はたくさんいるはずなのに、あまり多面的に語られていない気がするし、語られたとしてももうしろめたさや扱いにくさがつきまとう、ちょっとしたタブーじゃないですか。それこそ『ザ・ノンフィクション』のようなテレビ番組の格好のコンテンツになっていたりもします。今回、それらが組み合わさり、不用意だった自分の元に一気に到来しました。ポジティブにもネガティブにも色々と考えてしまいがちですが、ともあれ、まずは僕自身がひらき直っている状態であることが大前提だなと思っています。要するに、ケ・セラ・セラ、ですね。

## 2 「人類みな兄弟」解放宣言 小西秀和

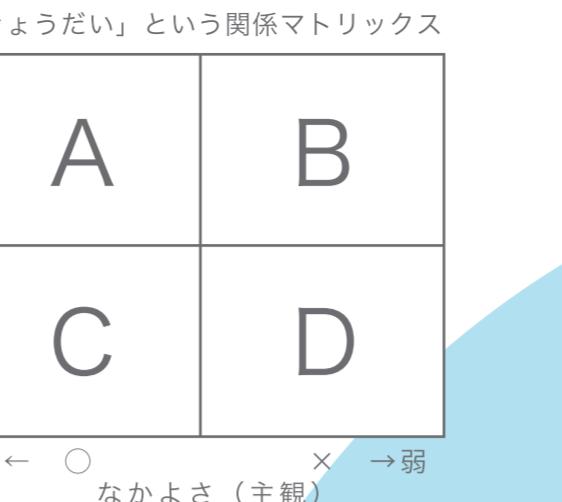
昭和のある時期「人類みな兄弟」というフレーズが、マスメディアを通じて世にひろがった。戦前から戦後にかけて右翼のドンとも呼ばれ、モーターボート競走や社会奉仕活動（現：日本財团）を精力的におこなった笛川良一（1899-1995）が唱え、自著『人類みな兄弟』（1985）のタイトルにもなっている。英語になると“All are brothers.”となるが、赤十字社を設立し第1回ノーベル平和賞を受賞したアンリ・デュナン（Henri Dunant, 1828-1910）も唱えたそうだ。現代でも“Hey brother!”と、親しい友に呼びかけるときに兄弟が使われている。論語には「四海之内皆兄弟」と、孔子（BC551-BC479）の教えが記されている。四海とは世界という意味で、全人類と解釈されている。

このように兄弟（brother）は、姉妹や兄妹、姉弟といった家族関係を指すだけではなく、ある種の関係性をあらわす言葉として使われている。そんな「きょうだい」とは一体なにか？ 考えてみたい。

「きょうだい」の使われ方を分解してみると、2つの要素が組み合はさっていることがわかる。ひとつは、“つながり”である。血縁だけではなく友人や仲間など、客観的なカテゴリリーに属するか否か等の尺度がある。もうひとつは、“なかよさ”である。「きょうだい」の裏には、仲良くして当たり前という主観的なモノソナが存在している。

つまり「きょうだい」は、“つながり”と“なかよさ”的有無や強弱の組み合わせによって成立している関係性であり、図のように表すことができる。先人たちが唱える「人類みな兄弟」を図にあてはめて考えてみると、A を指していることがわかる。人類という客観的なつながりのもと、仲良くあるべしという主観が組み合わされた主張である。しかし重要なのは、B や C の存在だ。例えば、実の兄弟姉妹であっても仲良いわけじゃないというのは B だし、人間と動植物や AI（人工知能）の異種間の親父というのは C に分類されるだろう。B や C にも、れっきとした「きょうだい」という関係性を認めなければならない。

そもそも「きょうだい」に限らず、家族や親子・夫婦、会社、学校、地域…という関係性のなかにも「人類みな兄弟」的な思想が紛れ込んでないだろうか。「かくあるべし」という狭い解釈や偏重観が、閉塞感を生んでいます。「きょうだい」という関係性マトリックスが示すように、A も B も C も等しく認め合えることが今必要なのだ。ここに、「人類みな兄弟」からの解放を宣言する。



## 5 きょうだいが後ろめたい 岸田裕佳

きょうだいが後ろめたい  
ずっと家族、特にきょうだいに対して後ろめたい気持ちを抱いている。今回の ZINE 制作を通して、アカデミックな発見の原因のよう気がして、いまでもどこかいたまれない気分になる。

ZINE のテーマを「きょうだい児」にしようと意見が出たときも「すごくいいと思います~」なんて言いつつ、そういうことに触れなければいけないかなというざらっとした気持ちになったのを覚えている。

なので、たけし文化センターで社員のお姉さんである久保田瑛さんにインタビューした際は、瑛さんが「たけしと特別仲良しなわけじゃない」というような率直な気持ちを語ってくれたのです。わたしは「たけし文化センターで行われたクラブアルスについての話を聞いて興味を持って」だと、それこそ「精神疾患を持つ兄弟について」を「ケア」に関心がある」というような当たり障りのないことを言った気がする。

わたしには兄と弟がいて、いま思えば、わたしも含めようだい 3 人も全員プレッシャーに弱いタイプだったように思う。親からの期待を一身に受け、兄は地元から離れた寮生活で人間関係に悩んで哲学科に進学したし、弟は大学受験時に統合失調症を発症した。わたしは「女のお子だから」という理由で、あまり期待もされず、一方でまた、「女の子だから」という理由でそれなりにお金はかけてもらえたので、学校に馴染めないなりに、本を読んだり、音楽を聴いたり、比較的自由に自己意識をこじらせ、文学部に進学した。

もともと大阪の南の方の、祭りで人が死ぬ、お笑いコンビ・見取り図のコント「南大阪のカスカッフル」を地でいく地元の雰囲気がとても苦手で、大学は絶対に東京に行くと決めたし、上京してからはあまり頻繁には地元に帰りもしなかった

ころに目の前の人のことを知りもせず「わかります～わかります～あなたたちの原動力って、悲しかったことって、うれしかったことって、いま必要としていることってこういうことですよね？ わかります～わたしにもあります。それ、こういう風にしたらよくないですか！」とか言って、相手の触れられたくない領域に土足で入り込むようなことだ。

要はわたしは、今回の ZINE 制作でも、「きょうだい児」としての瑛さんの気持ちを自分の手持ちの経験や感情でどうにか推し量ろうとしてしまったでした。

それでも、自分自身の今後のきょうだいとの関わり方にについて考える機会となったのだから、まずはそれで良いのだと思うことにしたい。

6 理想の呪縛から解放されたい きょうだいの話 こうだほなみ

私はひとり姉がいる。

姉が小学校3年生になる頃私は生まれた。

私と姉は8歳が離れている。

姉が小学生の時に貰った作文のタイトルは「わたしの妹」

私はその作文をたまに読んでちょっと泣く。

姉は私をらばとかディズニーに連れてってくれた。

私は姉の車にあるピンク色のごみ箱とうさぎ型の消臭剤を気に入っていた。

姉が私の楽しみに取っておいたショートケーキのいちごを食べる。

私は姉のいちごが好きだとうさぎが好きだとかいうことを真似した。

□ 私と姉は喧嘩をしたことがない。

□ 入る言葉はなんでしょう。1. だから、2. けれども

私にとってこの問題の答えは、「だから」である。

喧嘩するほど仲がいい、という言葉がある。

しかし私は姉をはじめ、友達とも喧嘩をしたことがある。

そんな私は仲良しがいいのではなく、もともと唯一の妹だから、必ずしも仲良しだ。

だから、自分が「きょうだい児」という言葉を好きだと感じる。

この寄稿文は福島らしく弟とその子を育てる兄妹として「抜ききょうだい児」のようだが、自分が「きょうだい児」のようだと自分が好きだと感じる。

この寄稿文は福島らしく弟とその子を育てる兄妹として「抜ききょうだい児」のようだが

*beyond siblings*

## *zine きょうだいをひらく*

「福祉を編集する！」ワークショップBチーム  
メンバー（執筆者）プロフィール

- ① 鹿角兄  
所詮きょうだい児。高校でアメフト～美大で芸術理論とか映画～グレーゾーンNPO～で、今は何者？という感じ。
- ② 小西秀和  
弟と妹がいる長男。アートとカレーが好き。京都で福祉のお仕事をしています。40歳からInstagramはじめました。
- ③ 根木一子  
東京のニュータウン生まれの一人っ子。新潟で文化芸術の仕事をしています。最近は日本手話の勉強が楽しみのひとつ。
- ④ 宮本早織  
弟がふたりいる長女。温泉と人類学が好き。鎌倉の会社でこれからの資本主義について日々考え中。
- ⑤ 岸田裕佳  
大阪府岸和田市出身。兄ひとり、弟ひとり。いまは東京で編集の仕事をして、かわいい猫2匹と暮らしています。
- ⑥ こうだほなみ  
ひとり姉が家業を継ぎ晴れて自由な身になり、好きなことをして生きていきたいと思う年頃の女子大生。
- ⑦ 秋山響  
知的障がいを伴う自閉症を持つ弟がいる19歳。  
たけし文化センターで住み込みアルバイトをしている。
- ⑧ 柚木康裕  
門外漢が文化芸術にハマリ、今ではそれを生業に。  
それゆえに仕事と学びの自転車操業を続ける日々。

発行・編集：「福祉を編集する！」ワークショップBチーム

監修：認定NPO法人クリエイティブサポートレツツ

影山裕樹(EDIT LOCAL)

発行日：2022年6月25日

### SPECIAL THANKS

久保田翠・小松理恵・影山裕樹・久保田瑛・久保田壯

夏目はるな・曾布川祐・杉田可縫・小泉文

igoku編集部（猪狩僚、高木市之助）